

✈️ 海外生活
だより

北京事務所

カードゲーム熱中録
—三国志をテーマにした交流ツール—

北京事務所所長補佐 林 泰明(島根県派遣)

中国・北京の市井を歩くと至るところでテーブルゲームに興じる人を見かけます。公園でも、空港でも、駅でも、食堂の中でも、外でも、ときには人々が往来する歩道の上でも。そして早朝でも、日中でも、深夜でも。おしゃべりをしながらであったり、ビールを飲みながらであったり……その場所も時間帯も楽しみ方も実にさまざま。たくさんの方が、まるで家の中のようにリラックスして思い思いにゲームを楽しんでいます。ここでいうゲームとは中国で古くから楽しまれる囲碁、将棋や麻雀、そしてトランプなどのテーブルゲームです。この中でも、近年中国国内で爆発的な人気を博しているカードゲームについてご紹介したいと思います。

トランプの推理ゲーム+三国志

中国でこれまで楽しまれてきたトランプの楽しみ方の一つに『殺人遊戯』というものがあります。物騒な名前ですが、大雑把に言えば推理ゲームで、ゲーム中のプレイヤー間のかけひきとカードをひく運がその醍醐味と言えます。以前より楽しまれていたこのゲームに日本でもファンの多い『三国

志(三国演義)』の要素を組み合わせたカードゲームが2年前に発売され、これが瞬く間に大ヒット商品となりました。その名は『三国殺』。特に若年層からの人気を集めており、今ではコンビニエンスストアや、街角の雑誌スタンドなどの身近な場所でも買い求めることができるため、多くの人が知るゲームの一つとなりました。

このゲームの魅力に心理的なかけひきがあります。プレイヤーは身分を明かさずプレーするので、自身の身分を隠す一方で、他のプレイヤーの身分をいち早く見抜くことが勝利へのポイントとなります。自分が君主の場合、忠臣と信じていた人が実は内通者であった、ということもしばしばです。また、自分と利害を同じくするプレイヤーとの協力関係を築くことも重要です。とはいえ、最終的な勝利条件を満たすために、協力しつつ牽制しつつ、という状況が生じることとなるため、ここでプレイヤー間にさまざまなかけひきが生じることとなります。

そしてまた、三国志に登場する名将や、豊富なアイテムも魅力の一つです。プレイヤーは配られたカードの中から自分の好みの武将を選びゲームをはじめることとなります。各武将それぞれのキャラクターを反映した個性が設定されているため、その特性を理解し、うまく活かすことも重要です。その他、一日に千里を駆けると謳われた赤兎や、関羽が用いたとされる青龍刀といったアイテムカードを組み合わせることにより、ゲームを進めて行きます。この武将やアイテムについては札を引くまで何が出るかわからないと

三国殺の概要

カードゲームの要素

- プレイヤー数：
4名以上
- ルール：
各プレイヤーが割り振られた4種類の身分(君主、忠臣、反逆者、内通者)それぞれの勝利条件に基づいて戦う(君主は1名だけ)
- 前提
君主以外のプレイヤーは身分を明かさない
- 勝利条件
 - ・君主：すべての反逆者、内通者を倒す
 - ・忠臣：すべての反逆者、内通者を倒す(※君主が倒されると負け)
 - ・反逆者：君主を倒す
 - ・内通者：他のプレイヤーすべてを倒す

三国志(三国演義)の要素

- キャラクター
 - ・それぞれが持つ個性的な技能
 - ・精緻なキャラクターデザイン
- 故事やアイテム
 - ・三国志ファンなら誰もが知る故事を反映
 - ・名馬や武器・防具など豊富なアイテム



三国志上人気のある登場人物が揃う



これらのカードを駆使してゲームを行う

く運や他のプレイヤーとの協力関係にも左右されることから、たまに勝利することも。ゲームを進めるうちに、自分なりに戦術を工夫してみたり、他のプレイヤーとの以心伝心の心地よさを感じたりと、さまざまな発見があります。「もう1回！

いうところから運の要素も加わっているといえます。

ゲームは三国志の世界に興味がない人でも十分に楽しめるものです。もともとルール completion が高く十分楽しめるところに、三国志のキャラクターを利用しプレイヤーの個性を追加することで一層そのゲーム性を増しており、魅力を倍増させています。キャラクターや三国志の世界観への人気もあり、プレミアムカードや、拡張キット、関連商品も多数生産され、多くのコレクターを生み出しています。また、カードのみならず、インターネット上や、スマートフォンのアプリケーションなどにも展開されている他、ファンのための雑誌も創刊されています。

いざ!

実際にプレーしてみました。人数は自身を含め6人、場所は北京市内のとあるファーストフード店。ルールや武将の特性を日本語に翻訳したメモをにぎりしめていざ対戦。

「僕は仲間です、助けてください」

「何で彼を信じるの？」

「俺は絶対に忠臣だって、嘘はついてないよ、信じてよ」

「林さんは、反逆者でしょ？」

こうした言葉でのかけひきを交わしながら各々が勝利するロードマップを描きます。それにしても、みなさん、私、かけひき以前にテンポが早すぎてついていけません……。武将の特性をよく理解し、戦略を持つことも重要ですが、カードを引

もう1回やろう！」時間を忘れ、あっという間に5時間が経過。このゲームはやはり人と顔を合わせ、会話を交えながら楽しむところに大きな魅力があると思います。

おわりに

このゲームを初めて知ったのは半年前、訪問先で紹介を受けたことがきっかけでした。紹介してくれた人は言います。「このゲームは本当に面白いと思いますし多くの日本の友人にも知ってもらいたいと思っています。けれどこれは私にとってはきっかけの一つでしかなくて、こうしたきっかけを利用して日中友好を少しでも推し進めていきたいのです。大げさに言っているのではなくて結構本気です」。もともと北京市内の大学生が開発したというこのカードゲームは、今や一部の大学や企業では大会も開かれるなど、中国の若者の間の交流ツールの一つとなっているそうです。『三国殺』、確かにとても有効な交流アイテムです。



プレーの様子、相手の顔色をうかがいつつ……